

不動院寺報

# 不動院と檀家と

第9号 令和5年12月  
 発行人 住職 片岡卓治  
 編集人 総代長 鈴木裕士

## 住職からの寄稿

### 弘法大師



弘法大師座像(戦国時代 不動院所蔵)

先日、NHK放送の歴史秘話ヒストリア『空海の贈り物』を見る機会がありました。その中で、空海が一番弟子の智泉を亡くした時に詠んだ『亡弟子智泉が為の達囃の文』には心を揺り動かされました。

かな 哀しい哉 哀しい哉 哀れが中の哀れなり  
 かな 悲しい哉 悲しい哉 悲しみが中の悲しみなり  
 哀しい哉 哀しい哉 復哀しい哉  
 悲しい哉 悲しい哉 重ねて悲しい哉  
 そして、空海はこう続けます。「悟りを開けばこの世の悲しみ驚きは、全て迷いが生み出す幻に過ぎないことはわかっていきます。それでも、あな

## 長谷寺団参

真言宗の宗祖弘法大師の生誕一二五〇年を祝い、九月二十六日から三日間、住職を含む総勢二十五名で総本山の長谷寺を参拝しました。参加者のうち二名の方から寄稿いただきましたので紹介いたします。

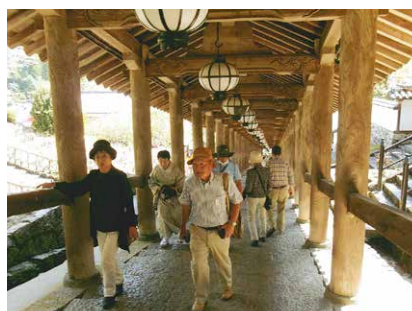
修学旅行以来の奈良県訪問  
 園部 孝男 (総代古山区在住)



長谷寺団参を最初に案内頂いたときは、参拝が九月の粟の収穫時期であり、忙しくて参加は難しいと、罰当りなことを考えましたが、この

機会を逃したら本山をお参りする機会はないかもしれないと思ひ、参加を決断しました。奈良県を訪問するのは修学旅行以来の半世紀ぶりであり、実際に東大寺や平等院の鳳凰堂などを訪れても、初めて見るかのような感動がありました。長谷寺は初めて訪れるお寺で、長い石段があつて大変だと聞いていました。確かに本堂まで三九九段に及ぶ登廊(のぼりろう)と呼ばれる石段が続きます

が、段差が低いため思ったよりも歩きやすく、さほど疲れもせず登りきることができました。本堂に入ると、御本尊の十一面観世音菩薩立像が安置されており、その高さは10m以上もあるとのこと、御本尊に圧倒されつつも優しさに包まれるような大きな安心感を得ることができ、そしてその前で特別法要が行われたことは心に残るひとときでした。また、参加された他の方々との交流や、共に本山を訪れて共感を分かち合うことができたことも今回の団体参拝の魅力の一部かなと思っております。



心に残る旅  
 長谷寺参拝  
 池川 恵子 (日吉町在住)



九月二十六日早朝、茨城空港で初めて参加者全員の方と顔を合わせ、当初は緊張しましたが、知り合



和氣藹々。神戸空港到着後直ぐバスに揺られ、当日は法隆寺等を参拝・散策しました。

翌二十七日は、長谷寺参拝の日。その前に室生寺を訪れ、高さ約十六mで屋外の五重の塔では一番小さいと言われる五重の塔を拝観、ひっそりと建っていました。美しく存在感がありました。その後長谷寺へ。長い階段を登り本堂に到着して程なく正午、鐘楼から研修僧(?)による鐘とホラ貝の音が鳴り響きびつくり。法要までの間、本堂で御本尊の十一面観音立像の御足に直接触れることができたこと、大師の御影堂へ行き、堂が金色で大変美しかったことが今も心に残っております。

午後二時、茨城県中部支所の各お寺から参加した檀家の方約二百人が本堂に集合。本尊の周りでは各寺院の住職が一斉に読経を始め、弘法大師生誕一二五〇年を祝う法要が始まりました。まさに莊嚴と言え、低音での読経の重唱です。読経の途中から、参加者それぞれが焼香を開始したのですが、本尊と参加者それぞれとの不思議な一体感があり、その場に居られた幸せを感じた時間でした。

二十八日は春日大社と奈良公園を散策後東大寺へ、修学旅行以来の大仏様との再会でした。旅の最後は宇治の平等院、なかなか来れなかった所。極楽をイメージする、という鳳凰堂を目の前にした時、これは、この旅に参加したことへの褒美かと思えました。総勢二十五人でのこの三日間は、本当に楽しく心に残る旅でした。

私たちに合ったプランを練って、連れて行ってくださった役員の皆様と住職のお心遣いに心より感謝申し上げます。



### この人にインタビュー



今回は上町在住の山本孝行さんです。剣道錬士六段。錬士とは武道における称号の第三位。岩間地区内では、六段以上の方が数名いるとのこと。

Q 剣道を始めた動機は？また何歳から始めましたか？

A 息子が剣道を始めたのですが指導員不足で、経験も無いのに手助け、軽い気持ちでした。男の厄年四十二才から。続けられたのは先祖

が武士と知ったこともあり、徐々にどっぷりです。

Q 現在の段位は？ 何歳で？

A 五段までは県単位の審査があり十一年が必要。私は七六才で六段を取得。交通事故被害や体調面からギリギリと感じましたが、それでも挑んだのは若い剣士たちへの刺激になればと挑戦しました。全国から2千名を超える参加者で、私より高齢の方がいたのは驚きと安心が。

Q 会社勤め時、稽古はどうしていました？

A 産経新聞の東京本社勤務で、夜七時から秋葉原の剣友会で週2回。帰宅は深夜でした。――

Q 今流に言えばストレス解消？ 心・技・体とは良く言ったもので、四〇歳代をうまく乗り切った感もありました。

A 剣道を指導するうえで心掛けていることは？

A 稽古は剣術の向上を目指して激しく行いますが、「剣の道」修行は簡単ではありません。5つの徳目(仁、義、礼、知、信)を身につけた少年・少女剣士が育つよう心掛けており、その延長で私も剣道を続けていきたいと思っております。



し谷を酒に、お買参して、写真に感謝、(編集人) 参拝集合し、枝参り、感謝、(編集人) 谷の集、藤をか寄せた。 長谷の集、藤をか寄せた。